

インターバンクの声（2014 年 12 月 1 日）

11月の最終営業日となった29日のニューヨーク市場は、感謝祭明けと週末を控えて本格的取引の再稼働には不向きな一日だったはずだ。しかも株式と債券市場は午前中だけの取引に限られ、為替市場にも大きな波乱は起きそうにもなかった。ところが、市場では、前日来の石油輸出国機構（OPEC）総会での原油生産高の据え置き決定による原油相場下落による影響が大きく、米国に対しては原油安が経済の押し上げを、日本やユーロ圏に対しては物価の押し下げ材料になるとの思惑に円安とユーロ安が薄商いの中で進行したのだ。気が付けばドル円は20日以来の119円に再接近、ユーロ・ドルも7日以来となる1.23ドル台半ば近くへ下落した。12月に入り今週は早速、米雇用統計の発表が金曜日に控え、その前日には欧州中央銀行（ECB）理事会が開催されるとあって、円もユーロも久しぶりの新値に突入するには絶好の環境が整っている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。